水生生物を調べてみよう

水生生物による水質の簡易調査のやり方です。

1．服装・持ち物のチェックと安全確認をしよう

川の中の生き物をとるときの服装・持ち物と、注意することを、10～11ページを見ながらチェックします。

2．川に入って調査地点を決めよう

水の深さがひざくらいまでのところで、流れがあり、こぶしよりも大きな石がある場所を選びます。

3．生き物をとろう

場所が決まったら、流れの下流側に網をおき、その場所の石をいくつか持ち上げバケツの中に入れます。 そして、石を持ち上げたあとの川底を足などでかき混ぜて、流れてくる生き物を網で受け止めます。石の入ったバケツと網を持って水から上がり、バットや白い敷物の上におき、ピンセットなどを使って生き物をつかまえます。

4．生き物を分けよう

6～7ページの「見つけた生き物の鑑定」を参考にしながら、よく見て分けます。指標生物以外の生き物もいるはずです。よく観察してみましょう。

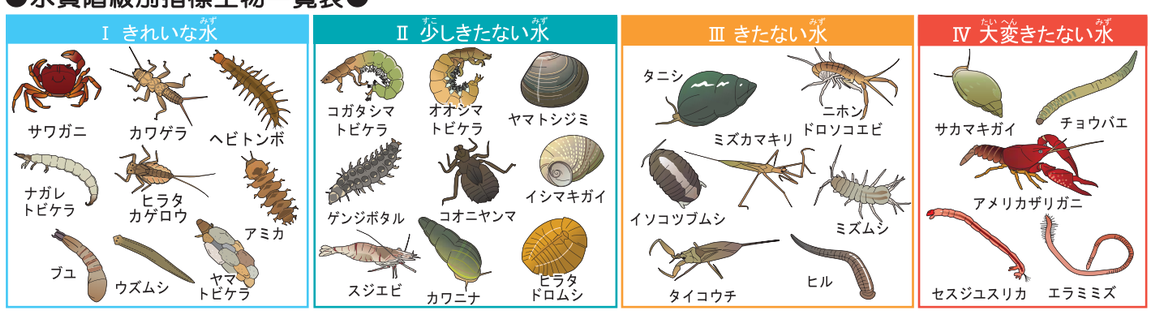
5．結果を記録し、水のきれいさを判定しよう

①指標生物が何匹いたかを水生生物調査シートに記入します。(右表の ①)
②数が多かった2種類(最大3種類)に●印、それ以外の見つかった種類には○印をつけます。(右表の ②)
③水質階級別に、●を2点、○を1点として合計し、一番点数が大きい水質階級が、調査した地点の判定結果になります。(右表の ③)

6．生き物を水にかえそう

調査が終わったら、とった生き物や石は川にもどしましょう。

●水質階級別指標生物一覧表●



水生生物調査シート

記入例

学校(団体)名

なまえ　　生物判定の指導者

河川名	きんきがわ	
調査地点名	●●橋の下流	
年月日　時刻	平成22年7月20日　11:00	
天候	はれ	
気温 / 水温(℃)	24℃ / 19℃	
川幅(m)	4メートルくらい	
流れの速さ	ふつう	
川底の状態	石がみんな丸かった。	
水のにごり、におい、その他	底まできれいに見えて、においはしなかった。	
魚、水草、鳥、その他の生物	小さい魚が見えた。 水鳥が魚をねらっていた。	

流れの速さの書き方

水に浮かんで流れるものを川に流して、1秒間に流れた長さが
・30cm以下なら「おそい」
・30～60cmくらいなら「ふつう」
・60cm以上なら「はやい」
と、書きましょう。

水質階級	指標生物		
		見つかった指標生物の数を記入しよう。数が多かった2種類(最大3種類)に●印、それ以外の見つかった種類には○印をつけよう。	
Ⅰきれいな水	アミカ		
	ウズムシ		
	カワゲラ		
	サワガニ	1	○
	ナガレトビケラ	2	○
	ヒラタカゲロウ	6	●
	ブユ		
	ヘビトンボ		
	ヤマトビケラ		
Ⅱ少しきたない水	イシマキガイ		
	オオシマトビケラ		
	カワニナ		
	ゲンジボタル		
	コオニヤンマ	1	○
	コガタシマトビケラ		
	スジエビ	5	●
	ヒラタドロムシ	2	○
	ヤマトシジミ		
Ⅲきたない水	イソコツブムシ		
	タイコウチ		
	タニシ		
	ニホンドロソコエビ	1	○
	ヒル		
	ミズカマキリ		
	ミズムシ		
Ⅳ大変きたない水	アメリカザリガニ		
	エラミミズ		
	サカマキガイ		
	セスジユスリカ		
	チョウバエ		

①　②

水質階級の判定	水質階級	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
	1．○印と●印の個数	3	3	1	0
	2．●印の個数	1	1	0	0
	3．合計(1.欄 +2.欄)	4	4	1	0
	この地点の水質階級は			Ⅰ	

③

合計点数が同じなら、よりきれいな水質階級をえらびます。

その他、気づいたこと	

例 ある地点で見つかった指標生物

サワガニ1匹

ナガレトビケラ2匹

ヒラタカゲロウ6匹

コオニヤンマ1匹

スジエビ5匹

ヒラタドロムシ2匹

ニホンドロソコエビ1匹

※ この用紙は、下記のURLからダウンロードすることができます。ご利用ください。
http://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/database/03.html